

第2回体育会館指定管理者選考委員会議事録

日 時 令和3年9月7日（火） 9：30～13：00
場 所 横須賀市役所3号館5階 正庁
出席委員 工藤 幸久 委員長（横須賀市商工会議所事務局次長兼総務渉外課長）
高橋 哲也 委員長職務代理者（横須賀市文化スポーツ観光部スポーツ振興課長）
鈴木 節子 委員（横須賀市体育協会 常任理事）
江藤 政克 委員（神奈川県立スポーツセンター 副所長）
高木 厚 委員 （横須賀市文化スポーツ観光部文化振興課長）
事務局 スポーツ振興課 前田課長補佐、平澤
傍 聴 者 35名（定員50名、抽選なし）

議事要旨

次の件について、事務局より説明を行った。

- ①傍聴者への説明
- ②委員の紹介
- ③委員長挨拶（第1回選考委員会からの経緯、公開プレゼンテーションと審査について等）
- ④定足数を満たし、委員会成立の報告

スポーツコミュニティよこすか

（１）プレゼンテーション 20 分

（別添資料参照）

（２）質疑応答の要旨

委員	利用者総数の目標値についての記載が事業計画に見当たらない。 目標についての考えを確認したい。
団体	計画書では、個人利用者数の増加目標を記載している。具体的にいうと、温水プールとトレーニング室。温水プールは1か所あたり、1日1名～2名。トレーニング室は機器を入れ替えたこともあり、1日あたり、3名～5名としている。全体利用者数については記載していない。
委員	障害者向けの自主事業者や車椅子の方の利用など、障害がある方の施設利用について、考えを確認したい。
団体	自主事業の参加など、障害がある方から相談があった場合、まずは保護者と面談し、どういう形であれば参加ができるかを検討する。 また、市内の障害者団体や、子どもたちのスポーツを支援する NPO 法人と日頃から意見交換を行っている。その団体のご意見やアドバイスを聞きながら、障害者向けの教室などの検討をしていければと考えている。
委員	臨時職員数について。体制や人件費の予算については妥当性があるものか。
団体	神奈川県最低賃金が上がるため、それを見据えた数字としている。 加えて、スタッフが業務に活かせる資格を持つ場合は時給を上げるなど、モチベーションの維持、向上を図る。体制も安心、安全を確保できるシフトとしたうえで適正な人件費を設定している。
委員	市内のスポーツ環境の現状をどのように捉えているか。 また、その現状を踏まえ、どのように管理運営を担っていこうと考えているか。
団体	小中学生に対し、「土日にスポーツ・運動をどれくらいやっているか」の回答データをみると、「全くやっていない」という回答が、小学生だと約 20%、中学生だと約 30%という結果である。また、高校生に「スポーツや運動を普段ど

	れくらいしているか」という回答データをみると、25%の生徒が「ほとんどしていない」という結果となっている。 体育会館では子どもから高齢者まで、市民がスポーツに触れ合う機会を増やしていくことが役目であるとする。体育会館に来たことのない方も多くいるので、色々な情報発信をしながら、まずは施設を知ってもらい、来ていただく。そして、ポイントカードを利用していただき、再び来てもらう仕組みとするなど、スポーツを楽しめる環境を広げていきたい。
委員	自主事業について。市の施設で実施するにあたっての趣旨、民間施設で実施されている事業との差別化や違いを教えてください。
団体	公共施設なので、市の事業もあれば一般の利用もある。そういった活動を阻害しないよう、利用の少ない施設あるいは時間帯、曜日に自主事業を行う。あまり土日での計画はしないが、要望もあったことから、佐島の丘温水プールで土曜日の教室を始めた。それも、利用者の少ない時間帯や利用できるコース数を何年もの実績を分析して決定した。今後、北体育会館やサブアリーナのプールにおいても、利用の少ない時間帯で、施設に来ていただくきっかけになるような自主事業を行うことができればと考える。一般の利用を阻害しない中で魅力的な自主事業を行うことが役目であるとする。
委員	大きい収入増を見込んでいるが、その手段を教えてください。
団体	繰り返しになるが、いかに体育会館に来ていただくかが重要であると思っている。コロナが心配な方もいると思うので、計画に示したとおり、安全安心にご利用いただくための感染症対策や設備上の配慮の上、安全な施設であることをアピールしていく。加えて、自主事業の本数をこれまでより多くするなどして、多くの市民の方に来ていただき、楽しんでもらえる施設を作り上げ、利用者数と利用料金収入の増加を見込んでいきたい。
委員	ポイントカードのアプリ化やフリーWifiの設置など、身近な市民サービスに対する新たな取り組みはあるか。
団体	ポイントカードのアプリ化は今後の検討課題として捉えている。ただ、スマートフォンを持っていない方がいるのも事実なので、デジタルとアナログ同時並行で進めるような仕組みを考えていきたい。 Wifiは災害時に利用者が使えるよう、花の国プール以外の施設に入れている。

	平常時のフリーWifi について以前検討したが、建物の構造上、フロアごとに機器を入れる必要性やコストが考えられた。お客様からの声などを踏まえ、スポーツ振興課と相談の上、前向きに決めていきたいと考える。
委員	現在管理する中で、今後改善していきたい点はあるか。
団体	完璧な運営ができているとは思っていない。アンケートやご意見箱などでお客様の声を直接受けることができるので、お客様とのコミュニケーションの中から、日々何事にも改善していきたいと考える。お客様目線に立った運営を大事にしていきたい。
委員	ポイントカードやホームページの提案について。新規顧客の取り込み、あるいはリピーターの獲得、狙いとしてはどちらに重点を置いているか。
団体	ポイントカードについて、本来は新規の方に知ってもらうのが良いが、結果としてリピーターの方に活用してもらっている。 色々な媒体を使って新規の方を取り込みたいと考える。ポスティングやメールマガジンを配信しているので、色々な年齢層の方に来ていただくためにこれからも行っていく。
委員	多様な性への配慮という部分で、スタッフもジェンダー対応が必要となってくると思うが、その部分の考えを確認したい。
団体	これまでも配慮してきたが今後も必要になってくる。まず、スタッフの意識として、研修の中で配慮すべきということを伝えていきたい。実際の対応として、更衣室の相談が多く、その際は障害者の更衣室を利用してもらっている。全てのスタッフが質を落とさないよう、研修などで徹底したい。

スポ・ワクよこすかパートナーズ

(1) プレゼンテーション 20 分

(別添資料参照)

(2) 質疑応答の要旨

委員	利用者数について約 7～8 %の増を見込んでいる。一方、利用料収入については同期間で約 2 %の増ということで伸び率に相違がある。この部分の考えは。
団体	無料ででの参加が可能な集客イベントやオンラインフィットネスを利用者数に加味しているためである。
委員	障害がある方の施設利用について考えを確認したい。
団体	極力、受け入れていく方針でいきたいと考える。ただ、市の持ち物であり、例えば、車椅子バスケットの場合、椅子が倒れた際に床が傷つくといったリスクもあるため、市や障害者団体と協議しながら適切な利用方法を一緒に探していけたらと考える。
委員	臨時職員について。人件費の予算組みや雇用のあり方についての考えを確認したい。
団体	臨時職員及び正社員等賃金の予算作成については、各社の賃金規定や現状の人員配置に基づいている。人員配置は安全に運営を行える体制としている。臨時職員の賃金等については、最低賃金はもちろんのこと、法定、福利と合わせ、施設で長く働いてもらうための設定としている。選定後、引継ぎの際に決めていきたい。
委員	市内のスポーツ環境の現状をどのように捉えているか。 また、その現状を踏まえ、どのように管理運営を担っていこうと考えているか。
団体	現状の体育会館の分析からお話すると、プールでは子どもの教室で賑わっており、体育会館では高齢者などの活動で盛り上がっているように思う。 市内を歩き回った中だと、うみかぜ公園では子どもたちが縄跳びやバスケットをしていたり、西の地域ではランナーが多い印象を受けた。体育会館の利用は高齢者や子どもが多いが、さまざまな可能性や顔を持つ街である印象を受ける。なので、既存の利用者を大事にしながらも、多様な方々を受け入れていきたいと考える。

	全国的にも少子高齢化の問題があるが、子どもから年配の方、そして働く方も運動ができていない状況がある。共同体としては、根拠を持って分析をしているので、そういった世代が利用できるような形で自主事業を展開し、たくさんの方が健康で長く住めるようにしていきたいと考えている。
委員	公の施設の場合、様々な市内団体とつながりをもって運営している。そういった団体との今後の関係性はどのように考えているか。 また、公の施設の運営という点で、民間施設運営との違いについてはどのように捉えているか。
団体	市内団体に対してはこれからも関係を密にしていきたい。色々な団体を含めて、一つの施設を運営していくという姿勢でいる。 民間との違いに関しては、様々な自主事業や災害のバックアップ体制などを構成企業の中で行っているなので、そういった要素を加えながら民間の良さを出していければと考える。
委員	南体育会館の冷暖房やトレーニング機器など、設備投資の具体的な規模はどれくらいで見込んでいるか。また、21 ページの人件費の設定について、「人員増員」と「ムリのない人件費の設定」という言葉が並び、矛盾しているように感じるがどういう仕組みか。
団体	設備投資について。特に、南体育会館の冷暖房設備とトレーニングルームに5年、約 50,000 千円を見込んでいる。 人件費については、人員の配置を増やすための増加を見込んでいる。ただ、効率的な運営で市の財政に貢献していくため、その他の経費を縮減しトータルコストの削減に取り組んでいく。
委員	冷暖房はどのような仕様を検討しているか。
団体	詳しい仕様に関しては選定後、現場に入って調べていきたい。熱中症を予防することが大前提のため、一番効率良く冷えるものを導入していきたい。
委員	台風や崖崩れの恐れがある際、体育会館を避難所とすることがある。夜間を含め開放する可能性があるが、その点についての考えを確認したい。

団体	他の自治体の指定管理施設を避難所として開放した例があり、職員が夜間対応した実績がある。命が第一のため、然るべき対応をとっていきたい。 また、構成企業では、24 時間 365 日天候を監視しているセンターがあり、管理する物件に危機がある場合、事前に警告を出す仕組みがある。避難所に設定されるということであれば、準備するよう現場に通知されるので、より早い対応ができると考えている。
委員	水泳の自主事業について。充実した提案であるが、一般利用を阻害するといった懸念はないか。
団体	一般利用を阻害しないよう計画している。まずは、既存教室を踏襲したプログラムで運営し、当事業体としては参加者数を増やすなど、中身の部分を変更していく。コース割を変更しなくてもよいので、今までどおり一般利用と教室が共存できるような運営ができると考える。
委員	個人情報の管理について。独自システムである場合、情報漏洩のリスクが大きいのと、メンテナンスの費用がかかると考えるがその辺はどうか。
団体	独自の利用者管理システムを他の自治体の施設で導入している。 紙での運用が情報漏洩につながった事例があるため、なるべくペーパーレス化し、盗難などのリスクをなくしたうえでシステム化している。運用する会社はプライバシーマークを取得してシステムを利用している。民間のフィットネスクラブや指定管理施設でも実装しているのでその点は安心してもらいたい。 メンテナンスの費用はかかるが、その分利用者満足度の向上によりトレーニング室の利用率が増えたという実績があり、費用対効果はあるのではないかと考える。
委員	外注委託しているということか。また、データはクラウド上での保管か。
団体	運用上のシステムは構成企業が管理するが、メンテナンスなどは管理会社と連携しながらやっている。クラウド上で保管し、管理会社でデータを管理している。
委員	ホームページ、SNS の活用について。ターゲットとコンセプトを確認したい。
団体	スマートフォンを持った若年層をターゲットにしているのはもちろんである

	が、上の世代の方も利用しているので多世代に向けてという風に考えている。紙よりも手軽に見れることを優先とし、広く情報を発信していきたい。
委員	ターゲットが幅広い層になると、情報発信がどっちつかずになる懸念がある。その辺はどう考えているか。
団体	情報の中身によって発信方法を変えていこうと考えている。

グローバルパートナーよこすか

(1) プレゼンテーション 20 分

(別添資料参照)

(2) 質疑応答の要旨

委員	利用者数と利用料金収入の目標値について。現状の利用状況に比べて非常に高い数字である印象を受ける。現実的に可能なのか、具体策を再確認したい。
団体	計画書にあるように、利用者数 100 万人を目標に掲げている。目標は、各施設、どの施策で何人増加させるかを積み上げたうえで設定している。 平成 29 年度が工事休館のない実績となるので、この年を基点として積算している。新しい取り組みとして、興行、個人で参加可能なスポーツタイム、トレーニングマシン、プール等のサービス向上、年間 20 回のイベント、これらを積み上げて 1 年目で 90 万人にらせていく計画としている。それ以降、様々な設備投資などのサービス向上でリピートを増やし、5 年目で 100 万人を達成する。決して簡単ではないと思うが、団体利用や個人利用、各体育会館ごとの利用者など、一つ一つの施策ごとに積み上げているので、妥当性の高い目標であると考えている。
委員	障害がある方の施設利用について考えを確認したい。
団体	全国で 200 を超える公共施設の運営を行っているので、車椅子の方や障害がある利用者は日常茶飯事で利用している。使う方が障壁を感じないよう、ハード面での整備、また、ソフト面でもユニバーサルマナー研修を職員が受けるようにしており、利用する方の目線に立ったサービスを図っている。 利用促進という点では、年に 2 回、パラスポーツイベントを各施設で実施する計画でいる。これは、障害者の方だけではなく、インクルーシブスポーツとい

	って、障害者の方向けに作られたスポーツが、低体力の方や高齢者の方でもやりやすいスポーツであるという考え方が普及しているので、障害者や健常者に拘わらず実施していきたい。 また、会社としても、ボッチャを普及していく活動を進めているので、市内地域間の合同ボッチャ大会など、ボッチャを通じて、障害者の方と健常者の方が交流できるような大会も開催していきたいと考える。
委員	車椅子の利用者へも積極的に使っていただく考えか。
団体	車椅子をご利用の方も数多くいると確認しているので、ハード面や更衣時の配慮や介助者へのサポートなどを図っていきたい。
委員	臨時職員の人数体制や予算について。人数に対して予算が足りるのかという懸念がある。この点の考えを確認したい。
団体	収支計画書では常勤職員と臨時職員を分けて積算をしている。常勤職員については各館3名ずつ配置し、それぞれ単価設定をしたうえで積算している。臨時職員数に関しても配置のポスト数に準じ、市内の類似施設のアルバイト時給を調べたうえで積算をしている。他団体と比べ、どれくらい少ないのかは分かりかねるが、一つあるとすると、マルチジョブの考えで、正社員の責任者がずっと事務室にいるわけではなく、状況に応じて受付業務やプール監視を行ったりと効率的にローテーションを回していくので、比較的低い数値となったのではと考える。
委員	市内のスポーツ環境の現状をどのように捉えているか。 また、その現状を踏まえ、どのように管理運営を担っていこうと考えているか。
団体	実際に施設を利用した中で感じたことは大きく二つある。一点目は、市が行う市民スポーツ教室や体育協会が行う教室などが豊富にあるということである。地域の団体が市民のスポーツ振興に関する活動を幅広くやっていた。総合型スポーツクラブも拠点が増えるという話もある。指定管理者が地域と共生し、地域の方々がスポーツ振興に向けた自発的な活動を妨げたりせず、むしろもっと協力してアピールしていく必要性を感じた。 二点目は、運営に関わるところだが、利用者として使ってみると、「なぜ更衣室が濡れているのに、すのこが置いていないのだろう」や、「なぜプールにタオルや飲み物を持っていきたいのに棚がないのだろう」とか、「更衣室にベン

	チを置けば出入口が渋滞しないのに」など、そういったきめ細やかな目線が若干欠けているように感じた。 最初に来た時の印象をすごく引きずってしまうもので、もう来たくないと思うか、また来たいと思うか、そこが分かれ目となるが、1回目に来ていただいた方に快適に使ってもらうように、目に見えないきめ細やかなサポートがまだまだ改善できる余地があると感じた。しっかりと、来た方に快適に帰っていただくというように、リピートを増やすような施策を積み重ねていくことで、運動を続けていく、結果的には健康増進に繋がっていくのではないかと考える。
委員	公の施設の運営という点で、民間施設運営との違いについてどのように捉えているか。
団体	公共と民間でそれぞれ200ずつぐらい運営しているので、バランスよく経験がある。一番大きな違いは、公共のスポーツ施設に来られる方は低体力の方やこれまで運動してきていない方々が対象になると考えている。一方、直営で行うスポーツクラブでは毎日運動したい方々が来られる。対象となる方々が違うため、毎月1万円払う方よりも、1回500円のほうが利用し易いというように、ハードルを低くするのが公共施設の役割であると考えている。 具体的には、教室の実施においても、リピート型の教室よりは、きっかけづくりとなるイベントを数多く提案している。イベントは無料参加ができたりますので、採算性だけを見ると良くはないが、これまで来なかった層の拡大ということで公共の役割としてふさわしいのではないかと考える。
委員	自主事業について。多種多様な事業内容だが、財源や収支計画に妥当性があるのか確認したい。
団体	現在の教室に参加するなど、参加者数などを自分たちの目で実績を確認し積算しているため大きなブレはないように考える。財源も積み上げたうえでの数字のため、確実に実行できると考える。
委員	地元雇用90%という数値は非常に高い目標である印象を受ける。一方、ダイバーシティ（多様性）の雇用を提案に掲げているが、実際のところ市内の高齢化が進んでおり、若い世代を雇用することが簡単でないと思う。主婦層や学生の雇用を含めたうえで、市内雇用90%という数値を達成する見込みはあるか。
団体	数年前まで横須賀市内に直営のスポーツクラブを運営しており、その時の市内

	雇用率の実績が約 85～90％であったと確認している。主婦、学生の方の雇用の促進をしていかなければ 90％という数字はいかないと思う。また、現指定管理の職員の中で今後も続けていきたいという意欲をお持ちの方は積極的に継続雇用をしていきたいと思う。継続雇用の方と新規雇用の方をバランスよく採用していきたい。 経験上、基本的に人材の雇用に関しては、まず施設周辺で求人広告を行うので、市内雇用がほぼ全てになってくるのではと考える。また、周辺の大学や専門学校にも声掛けをし、直接就職課のような部門に求人票を持って、教師の方とご面談を行うということも過去の実績として行っている。そういった意味では市内雇用に関しては積極的に推進できると考えている。
委員	健康管理アプリについて。これは何を目的としているか。 例えば、利用者に健康の課題がある場合、どういう対応をとるのか。
団体	当社で運用しているアプリは、食事の記録管理と簡単な運動アドバイスという内容である。なので、先ほどのように日常的に運動する方向けというよりは、運動にあまり触れていない方向けのアプリとなっている。基本的にはそこから個別のサポートやネットワークにつながるというよりは、利用のハードルを低くするため、アプリ内で完結するような構造となっている。 摂取カロリーなど、個人の課題が出てきた中では、栄養サービスの企業と組んで定期的に栄養セミナーを開催しようと思っているので、そこにアプリを絡めていくという活用の仕方もあると考えている。 アプリとしては個人個人で完結するものであるが、活用の仕方は様々であるかと考えている。
委員	多岐にわたる広報手段を検討しているが、これだけの数をやると費用もかかると思う。新規顧客を獲得する上では、どの広報手段を集中的に使っていくか。
団体	全市民の方に広く知れ渡るというのが大切かと思うので、前提としてホームページや市の広報を活用させていただく。計画で記載した広告代理店と協議をしていく中で、SNS の活用を計画していく。現在は月 1 回程度の配信にとどまっているが、これを週 1 回に増やしていく。現在はフェイスブックを使っているが、ツイッターのほうが使っている方が多いので、モノを変え頻度を変えやっていく。発信についても、単なるお知らせというよりは、会議室の空き状況など、利用を促進するような内容にしていくことで潜在的にあったニーズを掘り起こす。使える SNS にしていきたいと考えてる。

委員	SNS に関しては委託するということか。
団体	そのとおりである。施設の者だと、情報を知っていても文字への打ち出し方が苦手であると経験上感じる。広報のプロは同じ情報でも、限られた文字数で上手に伝えていただける。情報はこちらから提供して、どういう表現で伝えていくかは広報のプロに考えていただく。

【委員長】

以上で、本日の公開プレゼンテーションを終了する。

(申請者・傍聴者退室)

----- 確認事項 -----

第3回選考委員会では、各委員があらかじめ仮採点したものを持ち寄り、委員相互での評価点を確認後、選考委員会の総評を決定する。

次回の会議は9月28日（火）午前9:30～ 3号館3階301会議室を予定。

会議終了。